

実施日：令和4年9月14日（2校時）	
領 域： 教科 算数	
取組名： ちょうどなんじ なんじはん	
対 象： 1年生	実施場所：教室
<p>ア ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 時刻の読みに興味・関心をもち、短針・長針がさす目盛りに着目して「何時」「何時半」の時刻を正確に読み取ったり、模型の時計で時刻を表したりできるようにする。 他者との交流を通して、コミュニケーション能力を向上させ、豊かな人間関係を築くことができるようにする。 	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 本時の課題をつかむ。 解決の見通しをもつ。 解決する。 適応題をする。 振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> 事前に日常で時刻の読み取り（何時・何時半）がどの程度できているか、時刻に関連する用語について知っているのかについての実態を把握して、授業設計を行う。 思考の混乱を避けるために、①短針で何時について学び、②長針（何時半）の順に指導する。 パワーポイントで作成した動画【別紙④～⑥】を使って、必要な教育用語や言葉に慣れながら、短針から長針の順に動き方と読み方を学ぶ。 各児童が持っている時計を使って、「ちょうど何時？クイズ」や「何時半？クイズ」の問題を作ったり、答えたりしながら、コミュニケーション力の向上や学習内容の定着を図る。 	
ウ 連携先：家庭	
<p>エ 連携にむけての取組</p> <p>日頃の児童の努力やよいところを連絡ノートや学年だよりで保護者に伝える。</p>	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前に隣接学年で指導案の検討や模擬授業を行い、研修を深める。 授業後に事後研修を行い、授業のねらいに迫れたかを検証する。 ペア学習を生かして、お互いの考えを伝え合い、認め合う児童を育てている。 	
<p>カ 評価の方法</p> <p>行動観察 発言</p>	
<p>キ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTを使ったり、ターゲットセンテンス「ちょうど〇時」「〇時半」を意識させたりして、時刻の読み方を理解することができた。 「ちょうど何時？クイズ」や「何時半？クイズ」の問題で、ペア学習でまわりの友だちとインプットやアウトプットを繰り返すことで、コミュニケーション能力が高まり、共に伸びようとする態度が育った。 	
<p>ク 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 大切な日本語の言葉（「さす」「こえる」「あわせる」）を押さえるために、説明をくどくどするのではなく、視覚による「言葉カード」によって理解させる方がわかりやすかった。 大切な言葉の理解や定着の仕方について、どんな方法がわかりやすいか検討をする。 ペア学習からグループ・学級へと伝え合う人数を増やししながら、コミュニケーション能力を高め、よりよい集団作りを行う。 	